

解剖学資料の曙

ーメメント・モリ芸術と解剖学的表現主義という視点ー

石坂（伊澤）和夏

NPO 法人大学図書館支援機構

解剖学書の古典のひとつとして知られる『グレイの解剖学』の初版は、1858年に出版されている。これに先立ち中世ヨーロッパでは、16世紀にイタリアで出版されたアンドレアス・ヴェサリウスによる『人体の構造』が解剖学研究に革命をもたらした。ヴェサリウスは、ローマ帝国時代のギリシア人医学者ガレヌスの研究者であったが、実際に人体を解剖して描いた図を木版画による挿絵として本書に掲載している。ヨーロッパ中世後期には、メメント・モリ（memento mori = 死を想え）という死生観を主題とする図像作品が一世を風靡したが、そこには美術史における版画というメディアと、グーテンベルクの活版印刷技術とが折しも時を同じくして登場したことが影響していると推測できる。美術史における死の擬人化図像は、解剖学研究という当時の科学の進展と連携して変遷を遂げていく。解剖学資料の描画の誕生とその背景について発表する。



• アンドレアス・ヴェサリウス『人体の構造』
口絵



• ゴットフリート・ホーフエルト・
ビドロ『人体解剖学』の挿絵